

### 3.2-3 世界は原子力発電を減らす方向だと思うが、日本はなぜ再稼働させるのか？

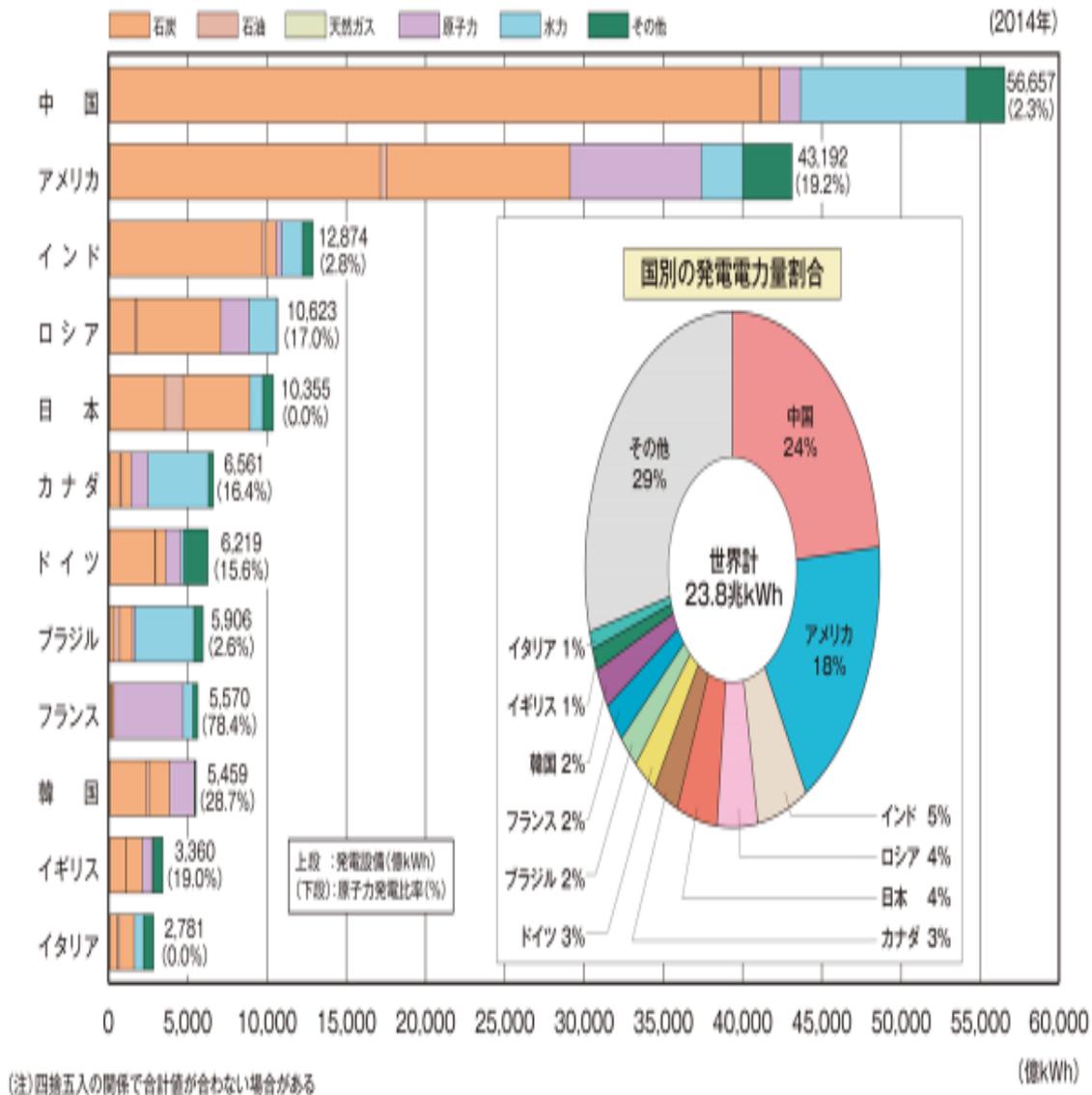
世界の原子力発電の動向について 2015 年 8 月 12 日の日本経済新聞の朝刊に、2013 年の現状と 2040 年の予想が掲載されています。それによると先進国での原子力発電は頭打ちとのことです。しかし世界の現状は原子力発電が有意な割合を占めています（下図参照）。

ことエネルギー問題については国家成立の根幹をなすもので、長期的視野に立った国家戦略をもって取り組むべき課題であって、一時の情や国民アンケートなどを見て大衆迎合して済ませることはありません。エネルギー技術には必ず表と裏があります。原子力も平和利用と兵器としての 2 つの面があります。もちろん科学技術それ自体に善いとか悪いとかいうものはなく、問題はそれを使う人間側にあります。吉本隆明（詩人、評論家）は東電福島第一の事故後次のように述べています。「人類の歴史上、人間が一つの誤りもなく何かをしてきたことはない。先の戦争ではたくさんの方が死んだ。人間がそんなに利口だとは思っていないが、歴史を見る限り愚かしさの限度を持ってその限度を保つ方法を編み出している。今回も同じだと思う。」また、「人類の歴史を振り返れば、あったことをなかったものとしたことはない。」とも言っています。

決して再生可能エネルギー利用技術の開発を否定するものではありませんが、技術的側面から見て、これからの化石燃料の環境的、資源的制約に加え、エネルギー密度が桁違いに大きな原子力エネルギーと桁違いに小さな再生可能エネルギーを比べれば、人類のエネルギー戦略にとって原子力エネルギーは不可欠の選択肢だと思います。世界レベルで見れば人口の増加に加え、ワイングラス社会（世界の 80%の富を 20%の人間が占有するという格差社会）の改善には原子力エネルギーは必須です。もとより原子力エネルギーはリスクゼロではありません。そのリスクがどの程度のものであるかの認識を社会で共有し、リスクミニマムを求めながらもリスクとともに生きてゆく覚悟を決めてこそ成熟した大人の社会というものでしょう。

また、弱肉強食の世界にあって資源小国の我国の立ち位置をしっかりと認識することが大切です。エネルギー、食糧、水などは国家の生存権に係ります。他国にとやかく言われても自分で自分の身を守る覚悟がなければ国は滅びます。（2015 年 8 月回答）

# 主要国の発電電力量と原子力発電の割合



出典：原子力・エネルギー図面集 2016